赤木は咲―Saki―の世界で麻雀を魅せる

豆腐琴

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

赤木しげるが転生して咲―Ｓａｋｉ―の世界で何をするのかを書いていきます。

目次

プロローグ ―――― 1

プロローグ

赤木しげるは鷲巣との麻雀に負け、血を抜かれ死んでいった。
そんな赤木は別の場所で目を覚ます。
赤木「ん？　ここは公園？死んだはずなのに何故だ？」
謎の声「神である私が転生させたからですよ。麻雀が主流の世界なので楽しんで下さい。」
赤木「ククク・・・そんな世界もあるのか。表で楽しめそうだと思ったのは初めてかもしれんなぁ。」
神「では頑張って下さい。」
これより声は聞こえなくなり、赤木は状況を確認してみた所神のおかげか戸籍もあり、まだ中学生で龍門渕学園に居ることが分かり、今度行ってみようと思った。
赤木「ククク・・・久しぶりの雀荘だ。どれだけ稼げるかな。」
この後、裏の人達の中で神域の男が帰ってきたと噂されるようになる。そんな事を気にしない赤木は倍プッシュを続け１００万を儲けて雀荘を出禁にされる。
赤木「たかが倍プッシュで出禁とは弱くなったものだ。時間も朝だしこのまま家に金

を置いて学校に行くか。」
赤木は金を置いて学校に行き教員室をよると教師から「君が赤木か、C組なので一緒に行って紹介するからな。」
ここで赤木挑発的な行動をとる。
赤木「別にそのまま行こうが変わらないだろ。」
教師「それはだめだ。学校のルールだからな。申し訳ないが守ってもらうぞ。」
しかし赤木素直に従う。
教師「よーしお前ら席につけ。今日から新しい人がクラスメイトになる。赤木入ってこい。」
赤木「赤木しげるです。よろしく・・・。」
生徒達「赤木だってよ。なんか近寄りづらい雰囲気出してるし関わんなくていいかな。」「なにあの子かっこよくない?後で聞いてみようよ。」反応は様々だったが男子と女子で反応が分かれた。
赤木まさかの放課後まで寝るという離れ業を初日でする。
赤木「そういえば麻雀部あったよな。行ってみるか。」
一際目立つ綺麗な所にある麻雀部。赤木は嫌な顔で入る。
透華「あら。誰でして?男子が何の用かしら?」

赤木「なに。麻雀をうちに来たに決まってるだろ。でも弱そうだからいいかなと思えてきたからいいわ。」
透華「調子に乗らないで頂けて？こてんぱんにして差し上げますわ。おーほっほっ」
赤木「じゃうってみるか。」
智紀「馬鹿にされちゃ困るよ。これでもまぁまぁ強いんだからさ。」
純「確かにな俺も結局自信あるからそう言われちゃやるしかねぇな。」
赤木の想定通りに事が進んでいく中、赤木勝ちが見えているかのようなつまらなさそうな顔になる。
赤木「何を賭ける。」
透華「もし万が一でも負けたら麻雀部の部員にしてあげましてよ。おーほっほっ」
赤木「足りない。全然足りない。」
透華「なっ。そこまで言うのなら、おじい様と会わせる機会をあげましてよ。」
赤木「足りないと言いたいところだがそんなもんか。じゃあやろう。」
卓に着いた時3人は赤木のオーラに心底恐怖する。何故ならそれ程のオーラを持ちながら普段は出さないで居られる事に。衣と同レベル以上である怖さに。
透華「親は私でしてよ。」
透華の親で始まる。

赤木まさかの1～9萬2．3．4萬発とまさかの聴牌。しかも
ダブリー、混一色、一通の7役と跳満確定状況。
透華まずは西をきる。智紀も西、純も西をきる。
ここで赤木まさかの1萬を引く。清一色が狙えるこの状況あえて4萬をきっていく。
全員が聴牌かと疑う中赤木この局全部ツモ切りで流局。
透華「テンパイでしてよ。」
智紀「テンパイだね。」
純「テンパイだ。」
赤木「ノーテン」
まさかの赤木テンパイしているのにノーテン宣言。この後、みんなが不思議な中で赤木1人で上がり続け、全員をとばす。
透華「あなたもっと強い人と打ちたくなくて？」
赤木「まぁそうだな。」
透華「着いてきましてよ。」